

平成25年度 茗溪賞(大学院修了者対象)受賞者一覧

平成26年3月3日

| 研究 | 専攻 | 氏名 | 活動の名称 | 活動の概要 |
|-------------|-----------------|-------------------------------------|--|---|
| 教育研究科 | スクールリーダーシップ開発専攻 | 中村 映子 | 小学校におけるアクションリサーチを通じた学級経営改善支援 | 困難を抱える公立小学校の2学級で約3ヶ月半にわたる学級経営改善のアクションリサーチを実施し、きわめて優秀な修士論文を作成するとともに、研究の過程で「教師による児童間理解」の観点で各担任教師との協議と試行を重ね、児童間の関係性改善に著しく貢献した。 |
| | 教科教育専攻 | 馬場 隆 | 筑波大学ネットワーク衛星「結」を利用した理科教育の開発 | 筑波大学ネットワーク衛星『結』の教育への活用を図るため、『結』の発信する電波を受信する経験を通して、児童生徒が(1)「宇宙」を感じ、(2)ものづくりを学び、(3)「宇宙」の科学を学ぶための授業教材を開発し、「宇宙少年団つくば分団」の児童生徒を対象に授業を実践した。 |
| | 特別支援教育専攻 | 渡辺 修 | 多様な子ども達に対する継続的なボランティア活動 | 心臓に病気を抱える乳幼児の保育介助と小学校特別支援学級等に在籍する知的障害児の学校行事介助及び川辺の活動を通して自然の恵みと地域の文化を学ぶ活動のボランティア活動を行った。 |
| 数理物質科学研究科 | 物性・分子工学専攻(前期) | 王 傲寒 | 小中高生への理科教育実験啓蒙活動 | つくば科学フェスティバル、リケジョ(理科系女子)サイエンス体験合宿、文部科学省主催科学技術週間などにおいて理科系への啓もう活動を行った。さらに、導電性高分子の原理と応用、化学合成実験、基礎的な物理実験などの体験実験、デモンストレーション実験を行った。 |
| | 物性・分子工学専攻(後期) | 金 兌現 | 筑波大学の国際・国内共同研究への貢献 | 物質工学において重要な分析手法である顕微ブリルアン散乱法を通じて、ポーランド、カナダ、韓国、インド、東京大学、島根大学との国際・国内共同研究に多大な貢献をした。それらの研究成果は米国や欧州の権威ある国際ジャーナル等に掲載された。 |
| システム情報工学研究科 | 社会システム工学専攻 | 盆子原 歩 | 福島県・茨城県における震災復興支援と高大連携およびアカデミックアライアンス連携への貢献 | 福島県被災地、茨城県内の高大連携活動にてティーチングアシスタントとして活躍した。震災復興シンポジウムでは裏方作業に従事し、本学の復興協定に大きく貢献した。学生見学や共同研究を担当し、鹿島アントラーズとのアカデミックアライアンス連携協定締結に寄与した。 |
| | 経営・政策科学専攻 | YAN ARYANTO | 経営・政策科学専攻における国際コミュニケーションの推進活動 | 7割以上が中国、インドネシア、ペルーなど留学生が占める経営・政策科学専攻においては、言語の壁という課題もあり良好な教育環境の構築が難しい。学生目線、能動的姿勢を通して国境を越えた学生間のコミュニケーションを推進し、同専攻の教育環境改善に大きく貢献した。 |
| | 社会システム・マネジメント専攻 | 吉井 淳 | 米軍基地ハイスクール等との高大連携および産学連携への貢献 | 米軍ハイスクールや県内外の高大連携活動では、ティーチングアシスタントの統括リーダーを務め、日米の高校生らに指導や発表を行った。また、住田研究室で行ってきた企業、研究所等との産学共同プロジェクトにおいて、学生のチームリーダーとして大いに貢献した。 |
| | リスク工学専攻 | 川瀬 雅士 | カンボジア シェムリアップ トンレアアップ村の学校における教育活動 | 2012年7月28日～8月3日の期間、カンボジア シェムリアップ トンレアアップ村の学校にて教育ボランティア活動に従事した。大学院で学修している環境・エネルギーを大切に利用する重要性を題材に指導を行った。 |
| | 知能機能システム専攻(前期) | 安立 隆陽 | 知能機能システム専攻における博士学生会運営委員としての活動および大学院生としての広報活動 | 専攻の学生組織である博士学生会において唯一の前期課程学生として運営に携わるとともに、活動の一環として Hack U の運営協力及び ITEE Tokyo Yong Researchers Workshop による研究交流イベントの運営協力を行った。加えて、筑波大学主催の進学説明会において説明員として広報活動にも貢献した。 |
| | 知能機能システム専攻(後期) | 小林 透 | 筑波大学での研究活動により培った専門性・コミュニケーション能力を活かしたアウトリーチ活動 | 学内組織である「知能機能システム専攻博士学生会」における活動、学外組織である「ITEE Tokyo Yong Researchers Workshop(TYRW)」における活動、中高生を対象とした大学体験等での模擬講義、海外での文化交流活動を行った。 |
| 構造エネルギー工学専攻 | 鈴木あゆみ | 協定校での短期留学経験を生かした留学生支援活動及び障害者支援活動の実施 | 協定校である高麗大学International Summer Campus プログラムに短期留学生として参加することで、数十ヶ国から集まった学生や教育関係者と交流をし、その経験を生かして留学生支援活動を行った。また、障害者支援活動の継続を実施した。 | |

| | | | | |
|----|-----------------------|----------------------------|--|---|
| 13 | 生物科学専攻 | Martin Miguel Casco-Robles | イモリ体再生メカニズム解明のための高効率な遺伝子改変技術の確立と普及 | アカハライモリの効率的なラボ内飼育法と採卵法、および個体全身に外来遺伝子を発現させる画期的なトランスジェニック法を確立した。これにより、国内外の多くの研究者にこれまで不可能であったイモリ体再生の分子メカニズム研究の路を開いた。 |
| 14 | 生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 | 宮田 宣也 | 東日本大震災被害を受けた南三陸町、石巻市雄勝への支援活動 | 被災地で住民や他の支援団体と連携し支援活動を行った。活動中に自身でも団体を設立し、内閣府の支援を受けながら南三陸町の起業支援や中高生の支援、雄勝町の祭礼の支援等を行い、大学生を含め他の組織との連携をとり長期的に貢献を継続した。 |
| 15 | 生物圏資源科学専攻 | 羽生 一予 | 環境教育における「土壌観察会」の推進 | 土壌の重要性を啓発するために、一般や児童生徒を対象とした土壌観察会(土壌の環境教育)を企画、運営した。北は北海道利尻町立博物館から南は福岡県油山自然観察の森の全国12か所で全20回を実施。関連内容が土壌肥料学会発行の土壌観察テキストに掲載され、学会発表を行った。 |
| 16 | 生命共存科学専攻 | 住吉 美奈子 | 筑波大学におけるアウトリーチ活動及びサイエンスコミュニケーション団体「SCOUT」の学生スタッフとしての活動 | 筑波大学の社会貢献プロジェクト・サイエンスコミュニケーション団体「SCOUT」の学生スタッフとして、一般公開イベントや復興支援プロジェクトである実験教室の企画・運営や研究成果のプレスリリースを執筆するなど、大学院での研究経験を生かした社会貢献活動を行った。 |
| 17 | 教育基礎学専攻 | 張 揚 | つくば市および茨城県における留学生交流の促進 | 毎月つくば市広報紙(中国版)の編集・作成・配布、姉妹都市である中国深圳市等からの訪問者のつくば市内・通訳、一般市民向け講演会(中国の高等教育改革に関して)を行った。県内小・中学校での国際理解教育の授業支援、東アジア(日・中・韓)高校生国際弁論大会通訳、県立盲学校の中学生を引率して中国・上海の訪問を行った。 |
| 18 | 心理専攻 | 広瀬 拓海 | 子どもの放課後の活動を支援する団体におけるボランティア活動 | 経済的な問題等を抱える家庭の子供の支援に主として取り組んだ。東京都の二つの団体(任意団体およびNPO法人)においてボランティア活動に従事した。具体的には、こういう活動に参加する子供の実態調査と並行して放課後の居場所づくりや学習支援活動を行った。 |
| 19 | 心理学専攻 | 兪 善英 | 消防職員の惨事ストレスに関する研究・ケア活動の支援 | 総務省消防庁が行った消防職員のストレス調査の補助、全国消防職員協議会からの要請を受けての東日本大震災の派遣消防職員のストレス調査の補助、惨事ストレスに関する研究会の幹事、カウンセリングコース主催「消防職員惨事ストレス初級研修」の事務を行った。 |
| 20 | 生涯発達専攻 | 笠原 桂子 | 聴覚障害者等の安定就労・職域拡大・能力開発・情報保障に関する支援 | 聴覚障害者は、職業生活上の情報と会話の制約によって、多くは就労継続に喫緊の課題を有していることから、①聴覚障害者等の安定就労・職域拡大・能力開発に向けた研修プロジェクトと周囲の障害理解と啓発に関わる企画・運営と組織化、②手話通訳による情報サポート、③関係職種に聴覚障害理解に関わる講演活動、④聴覚障害児家族への教育講演など献身的に支援活動を継続し、社会的評価を得た。 |
| 21 | 生涯発達科学専攻 | 堀内 泰利 | 筑波大学大学院カウンセリングコース・キャリア・プロジェクト(略称:TCCP)を通じた中小企業で働く人へのキャリア支援 | 本活動の企画段階から参画し、プロジェクトのリーダーとして中小企業で働く人を対象としたキャリア支援を3年間にわたり推進してきた。働くことを考えるワークショップの開催、働く人のためのキャリア相談室の開設など支援体制の整備にも大きく貢献した。 |
| 22 | ヒューマン・ケア科学専攻 | 松田 智行 | 絆がみえるまちづくりの創設 一つつくば市地域診断に基づく高齢者地域包括ケアネットワークづくり | つくば市在住の高齢者が住み慣れた地域で生活できる地域包括ケアネットワークの構築を目的に、つくば市内の行政・医療・保健・福祉関係団体とともに地域包括ケアネットワークの検討会を実施し、さらに、介護保険サービスの利用に関する政策提言を行った。 |
| 23 | 感性認知脳科学専攻 | 越部 裕子 | 筑波大学心理・障害相談室等における失語症等に対する相談および訓練の実施 | 大脳損傷後に生じる後遺症である失語症は長期的な言語訓練が必要であるが、現状ではその場は極めて限られている。「青空の会」(2007年～)と「なないろ会」(2012年～)で毎月1回、障害の程度や興味関心に応じた多彩できめ細やかな少人数制の集団訓練を実施した。 |
| 24 | 体育学専攻 | 高橋 靖彦 | 第10回世界ラート競技選手権における日本人初の男子個人総合優勝 | 2年に一度開催されるラート競技の世界選手権において、個人総合(直転、斜転、跳躍の3種目の合計点)部門で日本人初の優勝を果たし、ラートの魅力を国内外に広く発信した。 |
| 25 | 芸術専攻 | 市川 寛也 | アートプロジェクト「隅田川妖怪絵巻」の実施 | 東京都荒川区南千住を中心に地元のアートNPO「千住すみだ川」との協働で実施しているアートプロジェクトにおいて、地域住民参加型のまち歩きや小中学校での学習活動を重ねながら「川の記憶」や「まちの記憶」と向き合い、大きな歴史の中で忘れ去れつつある「小さな物語」に新たな光をあてた。 |

| | | | | |
|----|-----------------------------|-------|--|--|
| 26 | 図書館情報メディア専攻 図書館情報メディア研究科 | 村野 亜子 | 研究活動に基づく子どもと読書に関する研究成果の情報発信 - 「図書館総合展」および「ニコニコ学会βデータ研究会」での発表 - | 自ら主宰して定期的に勉強会を開催し、図書館総合展で子ども、読書、絵本などをキーワードとしたポスター発表を行った。また、研究会での研究成果の発表がネットを通じて中継されるなど、多面的な活動で社会貢献活動を推進した。 |
|----|-----------------------------|-------|--|--|

平成25年度 茗溪賞(芸術学群生・大学院生対象)受賞者一覧

| | 専攻 | 氏名 | 作品名 |
|---|---------------------|-------|-------------|
| 1 | 人間総合科学研究科 前期芸術専攻 | 笹岡 るり | 洋画 呼応する記憶 |
| 2 | 芸術専門学群 | 竹中 大悟 | 彫塑 いる まーれ |
| 3 | | 福山菜穂子 | クラフト ある日のこと |